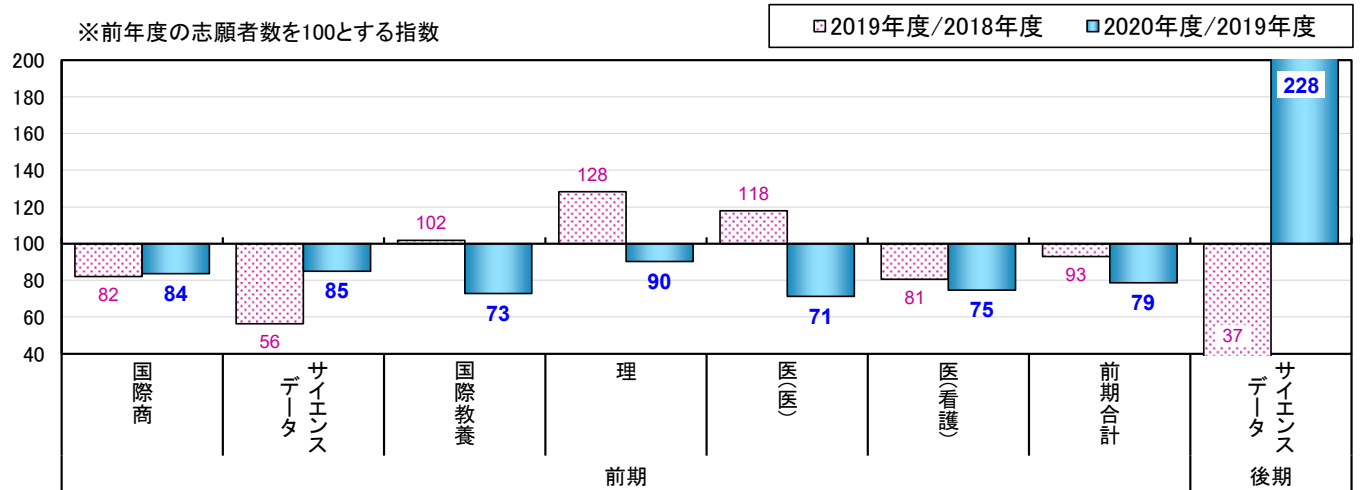


## 2020 年度入試状況分析【国公立大】

横浜市立大：前期は全学部減少、理以外は大幅減少

前期：-540 人 後期：+55 人



**入試変更点** 募集人員：医(医)〈地域枠〉〈前〉…17人→14人  
 〈神奈川県指定枠〉〈前〉…5人→2人  
 (看護)〈前〉…70人→65人

**COMMENT** ※ ( ) 内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は540人(79)の大幅減少で、2年連続減少。後期はデータサイエンスのみの募集だが、55人(228)の倍増以上の増加で、前年度激減の反動がみられた。これにより、志願倍率は開設初年度から23.0倍→8.6倍→19.6倍と毎年大きな変動が継続。

<前期日程>

- 国際商(84)は、系統への人気低下の影響もあり、改組前の国際総合科学(国際/経営科学)との比較を含めて、2年連続減少。志願者数が700人を下回ったのは2016年度以来。
- データサイエンス(85)は、開設3年目だが2年連続大幅減少。
- 国際教養(73)は、大幅減少で、改組前の国際総合科学(国際/国際教養)と国際総合科学(国際/国際都市)の合計との比較を含めて、2年ぶりに減少。志願者数が700人を下回ったのは、2013年度に前回の募集単位の変更が行われて以降では初めて。
- 理(90)は、改組前の国際総合科学(国際/理)との比較を含めて、2年ぶりに減少。方式別では、個別試験が数+理2の〈A方式〉(65)が2年連続大幅増加の反動で大幅減少、個別試験が数+理1の〈B方式〉(144)は2年連続大幅増加と対照的な増減となった。
- 医(医)(71)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願者数が300人を下回ったのは2年ぶり。
- 医(看護)(75)は、2年連続大幅減少。志願倍率は1.8倍と2倍を下回った。